

北 性 研

No. 52

編集 北海道性教育研究会
事務局札幌市中央区南21条西5丁目
札幌市立柏中学校内札幌市立柏中学校
校長 佐野友美

今年度は、自然豊かで異国情緒あふれる函館市において全国性教育研究団体連絡協議会北海道ブロック大会 兼 第51回北海道性教育研究大会函館・渡島大会を開催いたしました。道内各地から会場にお集まりいただき、オンラインを通して画面越しにも多くの皆様に御参会いただきましたこと、そして、北海道教育庁、函館市教育委員会、全国性教育研究団体連絡協議会より、多くの御来賓の皆様に御臨席いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

今大会では、大会主題を『豊かな人間性を支える性に関する指導』とし、副主題を「小・中学校における性教育の進め方」と掲げ、小学校・中学校における実践発表とその研究討議を行い、そして、函館・性と薬物を考える会の会長でおられる湯の川女性クリニック院長 小葉松 洋子 様を講師にお迎えして講演会を実施いたしました。

函館市立えさん小学校 榊原 木の実 先生の実践発表では、養護教諭の立場から、汎用性のある授業案を作成し、担任教諭との関わりを密にしながら全校へ指導の輪を広げられており、3年間にわたり地道に実践を積み重ねられた貴重な事例の発表でした。函館市立赤川中学校 弓庭 美帆 先生の実践発表では、小学校勤務経験を生かした視点から、中学校における性教育を保健体育科だけに留めるのではなく、他教科での学習内容を把握し、配列し、価値付けすることによって、学校全体でより多角的で効果的な指導がなされるように工夫された事例の発表でした。お二人の素晴

らしい発表から多くのことを学ばせていただきました。

小葉松様の御講演では、性加害・性虐待に関わる報道からの問題提起や思春期の心と体の発達に関わる事例、様々な書籍を御紹介くださる中から、学校で行われる性教育と学校と専門家が連携して行う性教育の在り方について多くの御示唆をいただきました。

性教育は、人間尊重の精神から互いを理解し、正しい人間関係を認識できるよう、子どもたちの健全な社会や家庭の営みを可能にする教育であり、人間の一生を通じて健全な人格形成を促すことを目的としています。本研究会においても「学校教育における性教育」「小・中・高の一貫した性教育」「豊かな人間性」「生きる力」などをキーワードに、実践的な研究活動を続けてまいりました。

現在も、子どもと若者の性に関する様々な社会問題が山積しております。ICTの普及による性的被害、デートDVによる人間関係のトラブル、多様な性の尊重など学校教育としても対応しながら、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指さなければならないと考えております。

そのためには、性教育の意義をしっかりと認識し、生命尊重や自己肯定感、適切な異性感と人間関係を身に付けさせるなど、子どもの発達段階に配慮しつつ、各教科をはじめとして学校教育全体を通して、意図的・計画的に指導・実践することが大切であると考えます。これからも全道の皆様と共に研鑽を積んでまいりたいと思います。

結びになりますが、函館市での本研究大会は、平成28年度以来となります。開催に当たり、深い御理解と多大なる御支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。そして、令和6年度の大会は5ブロックの御尽力により「第52回 釧路大会」の開催に向けて準備を進めております。今後もお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。

第51回 函館・渡島大会の報告

○令和5年11月14に大会研究主題を「豊かな人間性を支える性に関する指導」～小・中学校における性教育の進め方～として、渡島・函館地区の小学校、中学校のそれぞれから実践発表と、函館・性と薬物を考える会会長 小葉松洋子氏を講師にお招きして講演会を実施した。

1 実践発表

【小学校】

『おしえて！くもくん プライベートゾーンってなに？』を活用した授業実践

函館市立えさん小学校 榊原 木の実 養護教諭

日頃、勤務校においてズボンを脱がせたり、トイレを覗いたりするいたずらが止まない、着衣が乱れて下着が見えている、といった実態が低学年の児童に見られ、性に関する指導の必要性を感じていたようです。養護教員の研修会で、プライベートゾーン教育のための絵本の作者による「あなたが動かなければ、何も変わらない！」の一言に心を動かされ、令和3年度の授業公開日に絵本「おしえて！くもくん」を活用して1年生を対象に担任の先生と共に授業実践を行いました。プライベートゾーンを大切にする意識の高まり、着衣の乱れの減少など、児童の反応に効果を感じたということです。

翌年、令和4年度は、水泳学習の時期が始まる前に実施し、知識だけではなく実践力を身に付けられるようロールプレイを取り入れたり、単純な表現でより分かりやすく変更したりする等の修正を加えました。また、絵本の作者である小笠原氏から子どもたちへ向けたメッセージを見せたり、お便りを学校から保護者へ発信したりすることで、子どもたちの関心がさらに高まりました。

そして、令和5年、さらに取り組み方を見直しました。日常的な絵本の読み聞かせの実施、プライベートゾーンを守る理由をこれまでの「恥ずかしい場所」という表現を「大事な場所」に変更、塗り絵教材の工夫、

全員がロールプレイに取り組める授業展開の工夫などの改善を加えました。

3年間の実践により明らかになってきた課題の一つは、綿密な指導計画の重要性です。想定される児童の活動に対し、担任との効果的なT・Tの活用について綿密に計画しなければ効果的に授業を展開することが難しいとのことでした。

また、「生命の安全教育の指導の手引き」で示す「ねらい」を踏まえ、発達段階に応じて学年別に指導や系統的な学習の展開や4年生の「体育」の保健分野との関連を図ることができるようカリキュラム・マネジメントを行うことにより、さらに効果的な学習活動へと発展させていきたいと実践発表をまとめていました。



【中学校】

学校全体で取り組む性教育を目指して

函館市立赤川中学校 弓庭 美帆 教諭

弓庭教諭自身、保健体育の授業で、保健分野の性に関する内容の指導に苦手意識がありましたが、ある生徒の真剣な疑問、「将来、自分の子どもが欲しくなった時にパートナーの性感染症への感染の有無についてどう行動すれば良いのだろう」という質問を機に思春期の中学生に対する性教育の重要性を再認識したとのことから発表が始まりました。

赤川中学校のこれまでの性に関する取組は、生徒指導部による全体研修、「学級活動」「特別の教科 道徳」

「各教科」「総合的な学習の時間」において、それぞれの領域で個々に実施していました。実施時期や内容など相互の関連性に乏しく、発達段階に応じた系統的な指導には至っていないことに課題意識を持っていたようです。

そこで、校内の学習活動の全てを調査し、既に実践している性に関する活動の現状把握を図りました。

赤川中学校の性教育の現状

(1) 総合的な学習

- 1～3年 薬物乱用防止教室、情報モラル教室
- 2年 デートDV 教室
- 3年 性に関する講話（望ましい男女交際）

(2) 特別活動

- 1～3年 よりよい人間関係を築こう
- 1～3年 体育祭に向けて、文化祭に向けて
- 1～3年 長期休業に向けて

(3) 各教科

①保健体育科

- 1年 心身の発達と心の健康
- 2年 傷害の防止（犯罪被害の防止）
- 3年 健康な生活と病気の予防
（性感染症の予防 エイズ）

②家庭科

- 3年 幼児の生活と家族、幼児とのかかわり

③理科

- 1年 いろいろな生物とその共通点
- 2年 生物のからだのつくりとはたらき
- 3年 生命の連続性

④社会科

- 2年 2度の世界大戦
（基本的人権の尊重）
- 3年 人間尊重と日本国憲法
（国際社会と世界平和）
（基本的人権の尊重）

(4) 特別の教科 道徳

- A- 3 向上心、個性の伸長
- B- 6 思いやり、感謝
- B- 8 友情、信頼
- B- 9 相互理解、寛容
- C-14 家族愛、家庭生活の充実
- C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実
- D-19 生命の尊さ
- D-22 よりよく生きる喜び

これらの既に校内で取り組んでいる全ての学習活動を発達段階に応じて配列し、次に、生命の根源を知り生命の尊重に気付かせる「生理的な側面」、他者に対する理解や思いやりの心を育む「心理的な側面」、社会生活における性の理解を高め人間尊重の意識と感情を育む「社会的側面」、の三つの側面から整理し、それぞれの領域の学習活動を視覚化しながら系統立てて年間指導計画を作成していました。

今後は「学級活動における指導内容の整理」、「校内研修等で性の多様性についての理解」などの課題をもって学校全体で研究を継続していきたいとのことです。

2 講演会

【講師】函館・性と薬物を考える会会長

湯の川女性クリニック院長

小葉松 洋子 氏

【演題】函館・性と薬物を考える会の活動から見る、学校の性教育の現状と課題

～ 小・中学校における性教育に

～ 期待すること～

直近の性同一性障害に対する最高裁判決の事例や芸能事務所における性加害問題から、性に関する認識や現代社会の身近な諸課題を話題に取り上げ、産婦人科医として危惧される興味深い内容から講演が始まりました。

報道機関の社会的影響は大きく、報道しない責任も感じているようです。例えば、子宮頸がんワクチンに

係る副反応については、その症状を盛んに報道していますが、その後、2万人を対象にした副反応と思われる24項目の調査によると、ワクチン接種の有無と反応は関係無いと検証されていることについては報道されておらず、偏見が生じたままであるとのことでした。

また、小葉松氏に関わる出前授業に基づいた、性暴力から身を守る術や生理痛の状態によっては早めの病院受診の勧め、相談事例等、多岐に渡る話題について展開され、お話の中では以下のような言葉を強調されていました。



「人の失敗から学び、自分自身のこれからに生かしてもらいたい。」

「性交渉は、相手の過去も未来も全て引き受ける行為である。」

「性に関するブレーキとアクセルの適切な使い方ができていない。」

「(問題に対峙した時には) 物事の本質を考えてほしい。」

また生徒指導の場面でも男女問わない言葉の使い方(合唱での男性パート、女性パートと呼ぶことを止める)や制服の取扱い(男女分けなくネクタイ、リボンを着用できる)にも及ぶようになった、と発表を締め括られました。

令和6年度の活動について

【全道大会】

- 第52回北海道性教育研究大会 釧路大会
- ・日時：未定
- ・場所：釧路市立鳥取西小学校

- ・内容：小学校の授業 釧路の取組発表
- ※参集形式で開催予定

【第1回理事会】

- ・日時：令和6年6月8日(土)
- ・場所：札幌市立柏中学校

【全国大会】

○第52回 全国性教育研究大会

- ・日時：令和6年8月3日(土)・4日(日)
- ・場所：栃木県宇都宮市
- ・内容：基調講演、理事長講演、講演Ⅰ、講演Ⅱ、分科会

Ⅱ、分科会

【事務局から】

2020年度の3月から世界中を震わせた新型コロナウイルス感染症による活動への影響は大きく、約4年間に渡り、これまでの継続してきた会の活動を中止したり規模を縮小したりして対応してきました。その間、他の多くの団体や組織においても、解散や構成員の減少を防ぐことが難しかったこととされます。

このような今までに経験したことのない状況で、第51回北海道性教育研究大会 函館・渡島大会を無事に開催することができたのも、ひとえに、運営に携わっていただいた函館・渡島の先生方の御尽力のお陰と心より感謝しております。前例を踏襲することが難しく、英知を集めて、今後も継続可能な運営の方法を新たに工夫する中に、形は変わったが、運営する先生方のなんとかしようという、第51回を数える変わらない思いが参加する先生方に伝わっていたと思います。

顔を合わせ、笑顔で対話することで、心温まる思いができる良さを感じる大会となりました。

【北海道性教育研究会 事務局】

札幌市立柏中学校内

事務局長 山崎 武司(教頭)

TEL (011) 521-2341

FAX (011) 521-2343

Email: takeshi.yamazaki@city.sapporo.jp